

第2章

基本計画

第2節 重点プロジェクト



第2節 重点プロジェクト

【重点プロジェクトの位置づけ】

本市は「第2次始良市総合計画」において、基本構想の基本理念『可能性全開！夢と希望をはぐくむまちづくり～ひとりひとりが主役 住みよい県央都市 あいら～』に基づき、市民と一体となった、多様な魅力あるまちづくりを進めるため、総合的に政策・施策を展開していきます。政策・施策の推進に際しては、今後厳しさを増すことが想定される本市の財政状況を考慮しつつ、選択と集中を行い、基本理念の実現を目指します。

前期基本計画の期間において、特に重点的、優先的に政策分野の枠を超え、市一丸となって実践していく施策を「重点プロジェクト」として位置づけ、事業を展開していきます。重点プロジェクトに位置づける施策としては、政策誘導効果により目標人口を達成し将来の人口減少を克服する「始良市総合戦略」の推進、次代を担う子どもたちの夢と希望をはぐくむ高等教育機関の創設、駅を中心としたまちづくりの推進、子育て世代を全面的に支援する環境づくりの推進、生涯健康のまちづくりの推進、複合新庁舎整備の推進を位置づけます。

基本理念 可能性全開！夢と希望をはぐくむまちづくり
～ひとりひとりが主役 住みよい県央都市 あいら～

重点プロジェクト	分野別の政策					
	協働・自治	子育て	教育・文化	健康・福祉	産業・交流	安全・安心
始良市総合戦略の推進	◎	◎	◎	◎	◎	◎
次代を担う子どもたちの夢と希望をはぐくむ高等教育機関の創設		◎	◎		◎	
駅を中心としたまちづくりの推進					◎	◎
子育て世代を全面的に支援する環境づくりの推進		◎				◎
生涯健康のまちづくりの推進				◎	◎	
複合新庁舎整備の推進	◎				◎	◎

市民と行政が一体となった協働のまちづくり

1 始良市総合戦略の推進

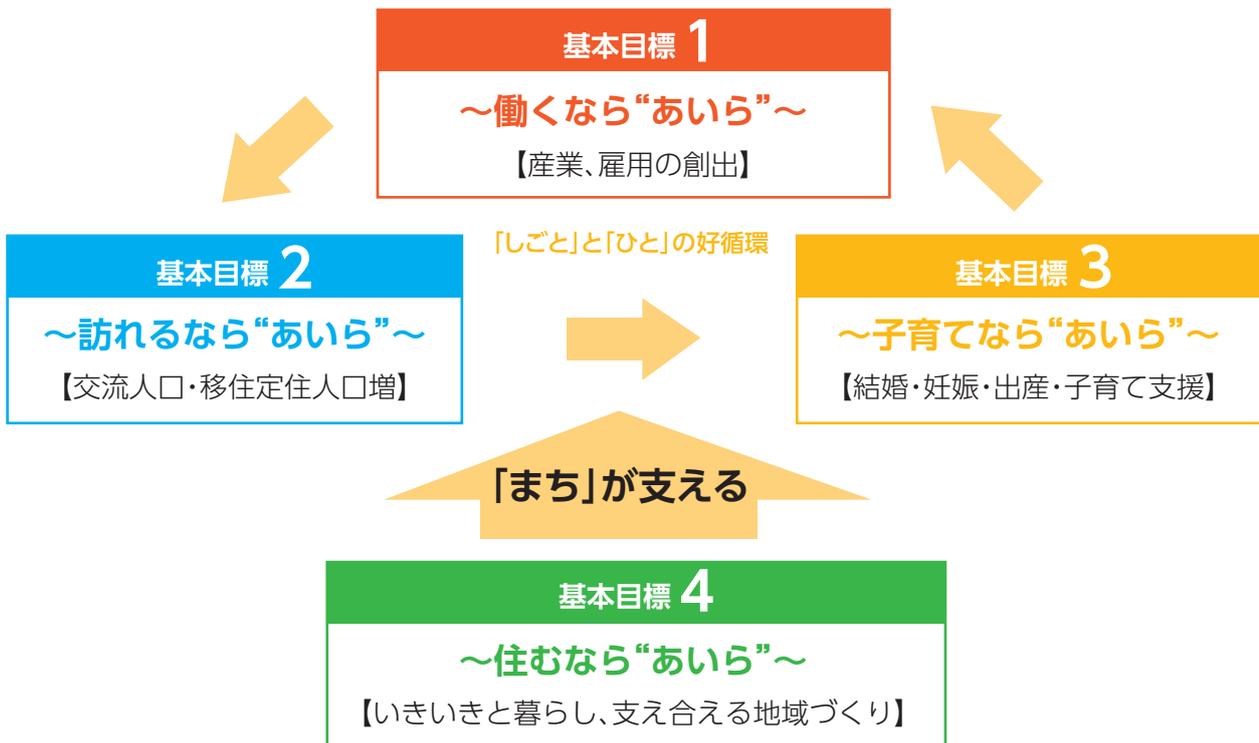
少子化の進行により将来的な人口の減少が見込まれる中、若年層の人口流出を減少させるとともに、地域社会や地域経済の活力を維持していくことは重要な課題となっています。

2016年(平成28年)3月に策定した「始良市総合戦略」では、「始良市人口ビジョン」や国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、次の4つの基本目標を設定するとともに、総合戦略の計画期間である2019年度までに達成すべき成果を数値目標として設定しています。

基本目標 1	地域資源を活かした活力ある産業、雇用をつくる ～働くなら“あいら”～ 【数値目標】5年間の新規就業者数 9,000人
基本目標 2	魅力あるまちをつくり、新しい人の流れをつくる ～訪れるなら“あいら”～ 【数値目標】5年間の社会増 3,300人
基本目標 3	結婚・妊娠・出産・子育ての希望を実現する ～子育てなら“あいら”～ 【数値目標】5年間の出生数 3,260人
基本目標 4	生涯すこやかで、いきいきと暮らし、支え合える地域をつくる ～住むなら“あいら”～ 【数値目標】2019年(平成31年)の住民基本台帳人口 77,500人

始良市総合戦略の全体像【4つの基本目標と相互の関係】

「しごと」と「ひと」の好循環をつくり、「まち」が支えるという関係を構築する



2 次代を担う子どもたちの夢と希望をはぐくむ高等教育機関の創設

本市の人口構造の特徴の一つに、15歳から24歳までの世代の転出者が多いことが挙げられます。これは、市外の高校や大学への進学や、卒業後の就職などにより本市を離れる若者が多いことを示しています。

一度市外に転出した若者が地元に戻るきっかけをつくる、あるいは、地元で進学ができる機会を創出するために、時代に即した力を養成する教育機関の創設を目指し、教育から就職までを本市内で完結し、若者が地元に着定する取組を進めます。

県央に位置する本市の利便性を最大限に活かすことで、市外からの進学者も期待でき、新たな人の流れも生まれます。あわせて教育活動を通じ、新たな経済活動や雇用も生まれるなど、地域経済への波及効果も見込まれます。また、市民に開かれた施設とすることにより、身近な学びの場としての機能を併せ持つ教育機関を目指します。

子育て世代に住む場所として選ばれるためにも、教育という分野で次代を担う子どもたちの夢と希望をはぐくむ高等教育機関の創設を目指します。

目標指標

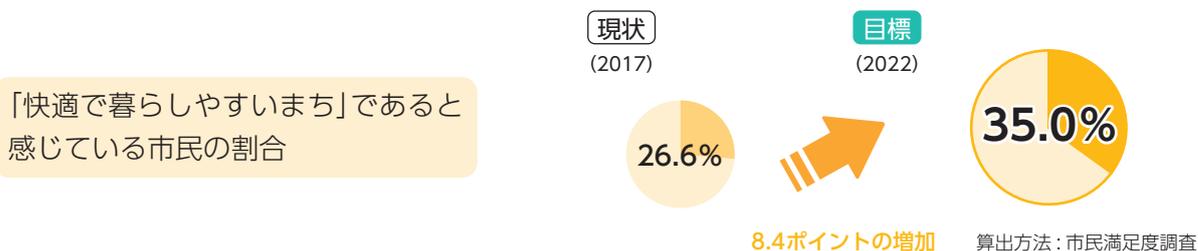


3 駅を中心としたまちづくりの推進

本市には5つの駅があり、本市へのアクセス性を高めています。移住・定住施策を推進するためにも、交流人口を増加させることは大変重要となっています。特に帖佐駅は、大型商業施設の立地により、乗降者数は増加しており、駅利用者の利便性向上を図ることは重要な課題となっています。また、駅利用者数の増加は、駅周辺の地域経済の活性化を促し、市に新たな賑わいをもたらします。そのため、市の玄関口である帖佐駅前に市民や観光客が集うことができる交流広場の整備を図るとともに、主要施設までのアクセス道路の整備も併せて推進します。

本市が有する観光地への導線において、駅は重要な観光拠点施設の機能も担っています。観光を目的として本市を訪れる駅利用者が増加することにより、駅周辺や観光地だけでなく、「まち歩き」と組み合わせることで、その周辺部も含めて広域に波及する効果が期待できることから、駅から所要な観光地までの公共交通網を整備し、駅を中心としたまちづくりを推進します。

目標指標



4 子育て世代を全面的に支援する環境づくりの推進

本市における出生数の推移はほぼ横ばいであるものの、急激な少子高齢化の波は全国的に顕著であり、地域の活性化や維持、存続のためには少子化対策に社会全体で取り組んでいかなければなりません。

本市では、希望する人が安心して子どもを産み育てられるまちづくりを推進し、妊娠・出産・子育てにおいて切れ目のない支援に取り組んでいます。子育てコンシェルジュや育児相談、ファミリーサポートセンターなど、子育てに対する情報発信を強化し、子育て世代一人一人に寄り添った取組をさらに推進します。

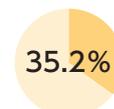
また、共働きや就業形態の多様化、家庭・家族の多様な形態により、子育て世代への精神的、経済的負担は非常に大きくなっています。誰もがいきいきと輝き、子育てをするには、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を図られる社会の環境基盤の充実が必要です。

子育て世代の拠り所となるような、天候に左右されない子どもの遊び場や親子が相互交流できる場所として、そして気軽に育児相談ができる窓口が一体となった施設の創設により、大人も子どもも、のびのびと豊かに過ごせる環境を整備します。

目標指標

安心して子どもを育てることができ
る「まち」と感じる市民の割合

現状
(2017)



目標
(2022)



14.8ポイントの増加

算出方法：市民満足度調査

5 生涯健康のまちづくりの推進

本市では超高齢化社会の進行が続いており、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2025年には全市民の約34%が65歳以上、そして約20%が75歳以上になると見込まれています。このような流れに対しては、健康寿命を延伸することが重要となります。全ての市民が元気に過ごすことができる時間を増やすことで、医療費の適正化が図られるとともに、地域全体の活力も生まれます。

そのため、日頃から健康づくりを積極的に行うことができる環境づくりとして、大型グラウンドゴルフ場の整備を推進します。グラウンドゴルフは生涯スポーツでもあることから、健康づくりだけではなく、世代間交流、地域間交流のツールとしても活用が期待できます。

あらゆる世代の市民が日頃から健康づくりに励み、生涯健康に過ごすことができるまちづくりを推進します。

目標指標

1日30分以上の運動を週2回以上実
施し、継続している人の割合

現状
(2015)

男性 25.95%
女性 22.0%

目標
(2022)

男性 40.0%
女性 35.0%

約14ポイントの増加

算出方法：生活習慣実態調査

6 複合新庁舎整備の推進

始良庁舎本館は1960年(昭和35年)、蒲生庁舎本館は1954年(昭和29年)、加治木庁舎南庁舎は1960年(昭和35年)、同北庁舎は1963年(昭和38年)に建設され、いずれの庁舎も建設後50年以上が経過し、建物や設備の老朽化やスペースの不足もあり、行政機能に支障を来しています。また、東日本大震災や熊本地震では、多くの行政庁舎が被災し、その機能を十分に果たすことができない状態となりました。そのため、災害時における市役所の役割の重要性から、行政庁舎は災害対策拠点としての機能を維持できる、災害に強い建物であることが求められています。

このことから、本庁舎と総合支所庁舎の整備については、地域防災拠点としての機能、まちづくりの拠点としての機能、多様化する市民ニーズに応えることができる機能などを兼ね備え、環境に配慮した人に優しい複合新庁舎として整備を推進します。

目標指標

複合新庁舎整備

現状
(2018)

未了



目標
(2023)

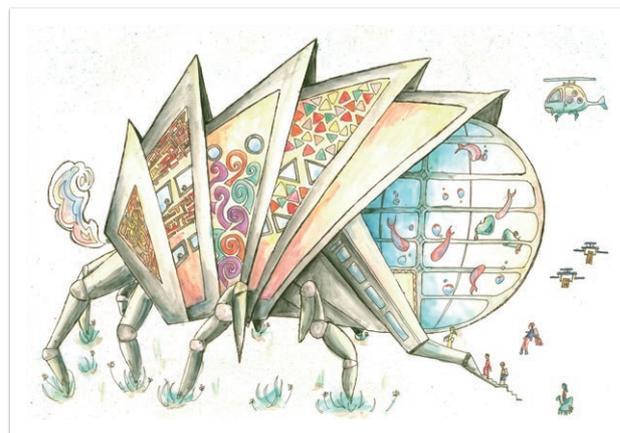
完了

算出方法：複合新庁舎整備事業進捗率

「複合新庁舎建設に向けて子どもたちが描く庁舎」絵画コンクール最優秀賞作品



【絵画で残そう！現在の庁舎部門】
『古き良き私たちの市役所』
帖佐中 2年 竹ノ内 ゆい



【夢あふれる未来庁舎部門】
『動く！新庁舎』
重富中 3年 井之上 穂佳